



撮影：Minda Nagase

今年はニュースレターの完成が大幅に遅れてしまい、お待ちいただいた会員の皆様には心よりお詫び申し上げます。次回は9月頃にお届けできるよう準備してまいります。限られた紙面ですが、これからも会員のみなさまにわかりやすく情報をお伝えしていきたいと思っております。今号は、夏にフィリピン・マニラで開催された「AIC アジアミーティング」のレポートからお届けします。

AIC アジアミーティング

3年に一度開催される「AICアジアミーティング」に、初めて参加させていただきました。今回はフィリピン・マニラでの開催でした。語学力のない私が参加して、何か役に立てるのだろうか、少し心配な気持ちを持ちつつ、マニラ空港に到着。AICフィリピンのメンバーの方がいきなりフレンドリーな出迎えをしてくださり、そんな気持ちを和らげていただきました。

一緒に行ってくださったミンダさんは語学堪能で、各国の方々と、コミュニケーションをしっかりと取ってくださり、会議の内容も、教えていただけましたし、今までお名前は聞けけれど、お顔と一致しなかった方々もどんどん繋がってきました。

フィリピンの子ども達のお世話をされてる方に、直接支援金をお渡しできましたし、AICタイとラオスのメンバーの方へも直接支援金をお渡しして、これからの井戸の支援についてお話することができました。子どもたちの文具として皆で集めているボールペンは、今回はカンボジアのAICにお渡ししました。

AIC本部の会長や幹部もとても気さくな方々で、レクリエーションの時には一緒にヨーヨー釣りしたり、とても身近に感じさせていただきました。



AIC-Japanも2名のメンバーが参加



AICは「ひとつ」だと実感するひと時

した。帰国した後に、その会長が教皇フランシスコとハグしてしているニュース映像を見た時は、感動でした。

言葉が通じた方がたくさんコミュニケーションを取ることができたのは間違いないのですが、言葉を超えた心の繋がりを、世界は繋がっているんだという実感をいただき、



アジア各国の植樹



AIC 会長・アリシア（左から二人め）とアジア責任者・ヴィクトリア（右から三人め）

日常に戻った今は、日々の活動を以前と同じように、目の前の一つ一つを丁寧に積み重ねていくことなのですが、その中にアジアミーティングでお会いした方々のほっこりした笑顔と優しさを愛情にして、今までよりも重みを持って活動し続けていけるかと思えます。

貴重な経験をありがとうございました。（小川）

フィリピンからの報告

From Philippines



シスターから、センターのビジョン、ミッション、プログラムやサービスについての説明を受ける両親たち。安心して我が子を預けられる体制を整えています。



ソーシャルワーカーのジーナさんが、2019年から2020年までの学用品の配布前に子供向けオリエンテーションを行いました。



フィリピンのスタッフが学用品の選択をしています。



新しい学用品の準備が整い、新学期を迎えることができました。笑顔でポーズ！

このように AIC-Japan の「里親会員」の会費は、アジアで支援を必要としている国の子ども達に送られています。主にはフィリピンとインドで、毎年新学期が始まる頃に送金しています。今後とも暖かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

ラオスからの報告

From Laos

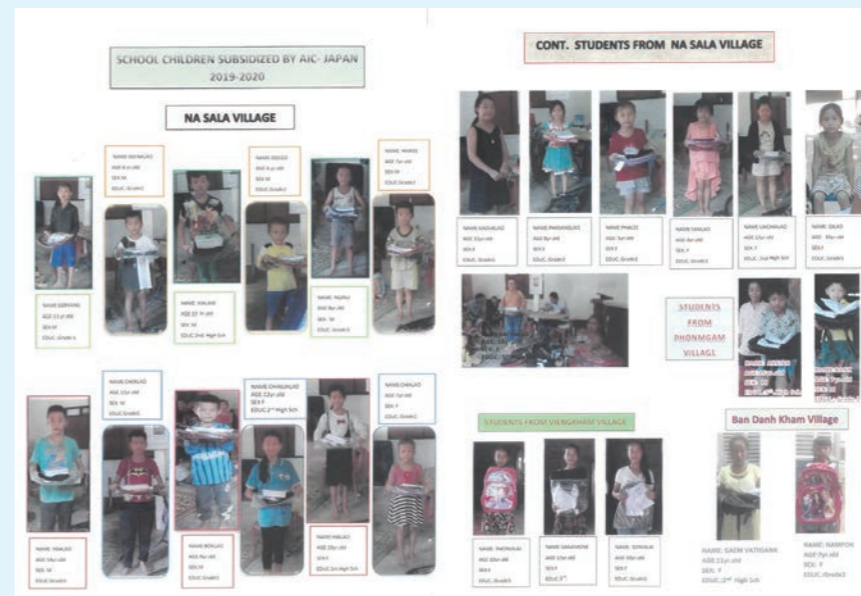
ラオスには教育の他、生きるための「水」の支援も行っています。現地のシスター、AIC ラオスと協力して継続的支援を行っています。

水支援プロジェクトは2018年から、プログラム管理スタッフ、AIC ラオス、熟練労働者、ボランティア達で会議を行い、供給されている水に恐ろしい微生物の汚染がないことを保証するための調査を開始しました。その結果、このプロジェクトが安全な水を持続的に提供可能であることを、補償することができました。

ダム建設とパイプラインの設置が完了し、現在はナムパットの住民がその実施プロセスに参加することで機能しています。そして、現在は各家庭に水を貯めるためのタンクを建設するため、調達を始めています。（ラオスの Sr. ミラからの報告書より一部抜粋）



毎年ラオスから届く報告書



2019-2020 の子どもたち（ラオス）

ラオスの子どもたち

ラオスへはクラス単位での教育支援を行っています。AIC-Japan からの支援で、ナサラビレッジの子ども達が元気に学校に通っています。

水と教育、どちらも必要な支援として AIC-Japan からの送金を初めて7年が経ちました。本当にありがとうございます。感謝とともに、今後とも暖かいご支援をよろしく願いいたします。

AIC-Japan 神戸主催 講演会【今、いのちを守るために】に参加して

2019年2月17日（日）カトリック垂水教会 澤田伊公子

永原先生は、1993年にマナ助産院を開業、2000年に「いのち語り隊」をスタートされ、2018年9月に一般社団法人「小さいいのちのドア」を設立されました。様々な事情を抱え、追い詰められた妊婦・母親・子供たちを救うために、スタッフ2名と共に24時間体制で、毎日の深刻な相談に対応しておられます。そのような中であっても、先生は連日のように講演会に赴き、「母性豊かに育てたい」を信条に「いのちの大切さ」を伝えておられます。

日本における「優生保護法(1948年)交付から、1996年の「母体保護法」に至る流れ。特に、戦後の「産児制限」は中絶を認めるという解釈に基づいている厚労省の実態。そして、中絶・(虐待死)遺棄・妊娠婦の自死など、先生が示してくださる数字に愕然としながら、身近に起きている現実に関心ではられない、と強く思いました。

「こうのとりのゆりかご」で有名になった熊本の例、ドイツの視察のことなど、有益なお話も伺えました。永原先

生は、クリスチャンとして聖書のみことばを支えとし、常に祈り、マザーテレサを尊敬しておられ、神からいただいた命を守るための活動を続けておられます。さらに、マタニティホームの建設も計画しておられます。大変お忙しい先生のご健康のほうに気がかりです。けれども、「心と体に傷を受けた」方々のために奔走されている永原先生に敬意を表するとともに、私ができることをみつけて協力したいと思いました。



カトリック垂水教会にご協力いただきました



マナ助産院・永原郁子先生

AIC-Japan 神戸主催 チャリティコンサート & 講演会

2019年6月15日(土) カトリック神戸中央教会 森山和泉さんのお話

森山和泉さんによる「未来は言葉で作られる～子どもの可能性を広げよう～」の講演会を開催いたしました。

森山さんは発達障害の大学生の双子をもつクリエイターで、マンガやエッセーで自身の子育て体験を発信し、神戸新聞などで連載、誰もがより良くつながる社会の実現を目指して、発達障害の理解を深める活動を行っています。



森山和泉さんの講演会

私が昨年11月、神戸市保健福祉局障害福祉課主催の森山さんの講演会取材、森山さんが実践してきた「言葉の力」に感動し、一人でも多くの皆さんに聴いてもらいたいとの思いで実現に至りました。

森山さんは「発達障害支援は誰もが住みやすい世の中になり、お隣や家庭、職場が楽しい、学校がステキな場所に

なることです」と挨拶。そのヒントは発する言葉にあり、違いを個性としてとらえ、否定や非難をしない、言葉を整え、明るく丁寧なたっぷりの言葉で向き合うことで自身の心が整い、とっても素晴らしい関係を築くことができることを2人の娘を育てて気づきましたと話されました。

発達障害をもつ人のマイナス面を超えた最大のよい面は「純粋さと正直さ」。すべて承認され、肯定的な言葉だけで、人が育つということはこれだけ素晴らしい世界を表現することができるということを経験したことを娘たちの絵を通して感じて頂ければと締めくくり、会場は温かな雰囲気になりました。(新海)



ももさん、きいさんの作品

終了後、森山さんと一緒に

プレゼント・ガーデン アンクルンオーケストラ 心洗われるアンクルン(竹製楽器)演奏 須田仁美

教会の中には、澄み切った風が静かに流れアンクルンというインドネシアの竹でできた楽器の美しい音色が涼やかに響き渡り、心の奥底まで洗い清められる思いがしました。障害を持たれた方々が、一生懸命演奏される姿に心を打たれ、この機会がなければ得ることが出来なかった素晴らしい貴重な体験でした。これからもこのような機会を作っていただくことを願っております。ありがとうございます。



森山和泉さん、NPO 法人プレゼント・ガーデンのご協力により、今年もチャリティコンサートを開催することができました。また、多くの方に足を運んでいただき、心より感謝申し上げます。

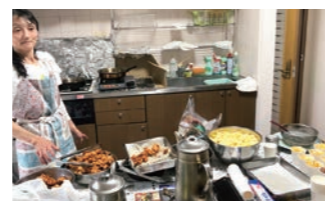
・森山和泉さん <https://ameblo.jp/happy-okathin/>
・プレゼント・ガーデン アンクルンオーケストラ <http://www.present-g.com/>

恒例のチャリティバザー

10/27垂水教会、11/3聖マリアの園幼稚園のコスモス祭(舞子)、11/17桃山台ふれまちで、恒例のバザーを開催させていただきました。お天気にも恵まれ楽しいひとときを過ごすことができました。今年は初めて大阪にも参加させていただきましたが、国際色豊かな素敵なバザーで、これから新しいご縁ができそうです。収益は支援金として責任を持って使わせていただきます。足を運んでくださったみなさま、本当にありがとうございました！



垂水教会ではお天気に恵まれ、たくさんの方にお越しいただきました。ありがとうございました！



コスモス祭では、たくさんの唐揚げとポテトを揚げました。

AIC-Japan 神戸の輪

滞日外国人に他する言葉の支援

北播磨総合医療センター 2019年6月24日(金) 全職員対象の2019年度接遇研修会が開催されました。日系二世のブラジル人の方に、患者ならびに通訳等支援者の立場で、日頃、感じていることや困っていることについて、



病院で講演をする日系二世の竹下さん

講話をしていただき、私(長谷川)からは「やさしい日本語」について、事務局担当者からは、医療通訳テレビ電話システムの導入について情報提供をしました。病院内での一歩は進みましたが、私は病院以外の地域の保健師さんや看護師さんも、同じ悩みを持っていることを知っていたので、北播磨総合医療センターの取り組みを参考事例に、小野市にその声を届けるハガキを投函しました。9月、市の健康増進課の方からお電話をいただき、今後3ヶ月ごとにミーティングをしながら、進めていくことになりました。(長谷川)



やさしい日本語とは

「つながり」に掲載

私たちの活動を大阪大司教区神戸地区評議会 広報誌「つながり」に掲載していただきました。AIC-Japanの誕生から、最近の活動内容まで、まとめさせていただきました。このような機会をいただき関係者のみなさまに心から御礼申し上げます。(北島)

この度は、AICの活動についてお伝えできる機会をいただき、心より感謝申し上げます。AICは1917年8月23日、当時の司祭ヴィンセンソ・ア・パウロがフランスのシャティヨンで設立して以来、400年続いている女性を中心としたボランティア組織です。本部はベルギーのブリュッセルにあり、国連にも議席を持っています。

日本は20年前、聖ヴィンセンソの聖徳姉妹会のシスターが中心となり、1999年に神戸、翌年2000年に和歌山に誕生しました。フィリピンの子どもたちへの教育支援から始まり、現在ではフィリピン、インド、ラオスにも支援を続けています。ラオスへは、子どもたちの栄養改善、村の水資源開発のための支援も行っています。

近年は、国内での貧困、子どもたちへの虐待が深刻な問題となり、私たちの活動も少しずつ変化しています。大阪の西成にある「子どもの里」には、バザーと夕食を届けるお手伝いを月1回行っています。また、ある病院を訪れる外国人患者が日本語の理解不足により十分な治療を受けられていないという状況を知り、草の根的に外国人患者の診療に必要な「言語マニュアル」を作成しました。現在は、病院がプロジェクトを発足し、接遇研修を開くまでになりました。

また、情報発信していくことも重要な役割の一つだと感じています。元・甲南女子大学 稲垣由子先生、マナ助産院院長 永原郁子先生の講演会を垂水教会で、今年はエッセイの森山和泉さんの講演会を神戸中央教会で開催させていただきました。その他、被災地支援のためのチャリティコンサートやバザー、手編み作品を必要の方々に届ける支援など、その時に必要な支援を行っています。



日本のAICは小さな組織であり、会員ひとりひとりの主体性とボランティア会員の支援により成り立っています。毎月、第2月曜日の午後には例会があります。祈りを持ってこれからも活動を続けてまいりますので、ぜひ一緒に活動して頂けると幸いです。

4

・カトリック大阪大司教区神戸地区「つながり」
<http://catholic-kobe.org/>

MTS 神戸より

ザ・ミッション・ツーシーフェラーズ神戸
チャプレン 司祭ポール・トルハースト

毎日おいしい料理を食べ、ヨーロッパの最新ファッションを纏い、中国の最先端のスマホを使う生活に欠かせない品々は、実はすべて海から運ばれてきます。私たちの快適な日常を支えているのが、海上物流の現場で働く船員たちなのです。

ザ・ミッション・ツーシーフェラーズ(MTS)は世界200以上の港で、危険な船舶労働に携わる船員やその家族を支援しています。訪船では、新聞や地元の情報を持って船員を慰問し、できるだけ彼らの楽しみや心配事について話を聴くよう心がけています。

最近の船舶は短時間しか停泊しません。たとえ短時間でも船員が上陸し、家族とWi-fiで交信したり飲み物を飲んで息抜きしたりできるようにしています。船員は特殊な環境で働いています。少しでも船から離れて日常に触れる事が、心身の回復に必要なのです。

1895年からMTSはステラマリスとともに、神戸に入港する船員への支援に努めてきました。国籍や宗教の違いを越えて、この活動が未来へと続くことを願います。



司祭(左)と船員さんたち



平成 30 年度 支援のご報告

水と食べもの ラオス支援

栄養改善の支援をいたしました。地下深層部の水を汲み上げるための掘削工事は継続中です。

支援先	支援月	支援内容	金額
ラオス	8月	子どもと若者の栄養改善	107,000 円
	7月	井戸のため	527,000 円

教育里親 アジアの子どもたちへ

昨年度は以下のとおり、教育資金を援助いたしました。

支援先	支援月	子どもの人数	主な支援内容	金額
フィリピン	5月	46人	制服、学用品、通学費用他	590,000 円
		5人	介護士になるため7ヶ月間の講習費	180,000 円
インド	5月	46人	教科書、制服、学用品、通学費用他	350,000 円
ラオス	9月	50人	学用品 50人分	67,000 円

その他 国内への支援

復興支援・社会的弱者への支援

支援先	主な支援内容	金額
NPO「子どもの里」	子ども達の食事のお手伝い	27,000 円
ザ・ミッション・ツー・シーフェローズ神戸	アジア貨物船の船員さんへ手編みの帽子	3,000 円

平成 30 年度 会計報告

2018年度 NPO法人AIC-Japan 神戸 会計報告

2018年2月1日～2019年1月31日 (単位：円)

収入			支出			
項目	金額	備考	項目	金額	備考	
前年度繰越	1,361,910		支援金	国外	1,730,235	フィリピン・インド・ラオス
水と食べものの会費	236,800	30名		国内	29,968	子どもの里・食材費
フィリピン里親会費	696,800	50名	事業経費	印刷製本費	53,640	ニュースレター
インド里親会費	337,160	33名		通信運搬費	35,375	切手・宅配料など
寄付金	450,424			保険料	8,000	ボランティア保険
その他会費	254,796	事業経費用		広告宣伝費	11,340	コンサート
正会員費	141,000	管理費用		支払手数料	48,138	口座徴収料金・海外送金料
受取利息	8		管理費	旅費交通費	76,400	AICフィリピン来日など
				通信運搬費	19,896	電話代
				接待交際費	84,233	AICフィリピン来日など
				諸会費	32,245	ファミリーデー負担金
				支払手数料	6,500	海外送金
			次年度繰越	1,342,928		
合計	3,478,898		合計	3,478,898		

昨年度の支援内容のご報告です。皆さまからいただいた支援金は、上記の通り使わせていただきました。本当にありがとうございます！ご報告が遅くなりましたこと誠に申し訳ありません。

会員のみなさま 順不同・敬称略

AIC-Japan は多くの会員の皆様のご支援によって成り立っています。暖かいご協力に心より感謝申し上げます。

水と食べものの基金

伊藤稔子 中井悦子
北尾好江 藤原淑子
近藤栄子 前川巖
佐野容子 松本正子
フスト・セグラ 三木洋子
寺田美世子 目黒俊三
永井曜子 森田聡子
福江由佳里 森田結子
藤井勲 石龍二
柳田和子 白水明代
山下富士子 富田恭子
吉谷順子 徳永愛子
最上愛子 古里たかこ
小川哲史・香織 小宮導子
亀本弘志・幸子 岩本和彦
藤田光弘・かなえ 衣笠さや子
介護サービス大きな木 兵庫いのちを大切に
京極千穂 にする会
松本幸夫 小川倫欣
愛徳姉妹会小林ハウス 匿名
岡部恩美
齋藤礼子
坂井洋子
佐武麗子
佐藤富美子
白根八重子

教育基金・フィリピン里親

荒木隆司 町野孝子
飯島修 森宇多子
石龍二 八城田鶴子
大池久栄 八城正知
大場雅子 和田昌子
尾島純子 新海真由美
加瀬谷洋子 奥村美由紀
勝又正幸 吉原聖母幼稚園 アンナ
神澤正三 吉原聖母幼稚園 聖モニカ
小森敬子 吉原聖母幼稚園 聖ヨゼフ
坂井洋子 吉原聖母幼稚園 聖クララ
佐久間初江 吉原聖母幼稚園 聖テレジア
佐藤寿子 吉原聖母幼稚園 聖ペトロ
高瀬靖子 吉原聖母幼稚園 聖ミカエル
高月朱美 吉原聖母幼稚園 聖ルカ
長尾史子 松野下修子
中挾直明 木村なおみ
西村房代
長谷川禎子
花岡誠一
花岡順子
濱田和子
菱田教子
福本暁美
富士宮聖母幼稚園
藤原洋美
水川美江子

教育基金・インド里親

石龍二
今内智恵子
牛田笙子
奥沢真理子
北島由理
坂井洋子
菅原景子
聖家族の家
ストップス静江
津下新子
中井悦子
戸波希久子
福三枝子
溝淵京子
森のベンチ
八尾允子
山本多津子
山村フランシスカ
和田真
定本ゆきこ
小倉眞智子
長谷川禎子
奥村美由紀
倉田昌子
高橋瑞枝
匿名

ご寄付・ご援助いただいた方

カトリック北須磨教会
カトリック明石教会
カトリック垂水教会
カトリック今市教会
カトリック尼崎教会
カトリック芦屋教会
今内智恵子
上田秀子
加瀬谷洋子
桐原尊子
武本暁子
森のベンチ
藪田保子
コールポップ
桃山台ふれあい
まちづくり協議会
聖マリアの園幼稚園
福岡カトリック学生会
タカダダンススタジオ
山本靖人
稲垣由子
浅見友岐子
井上文子
入倉君子
酒井慶子
東中八千代
中井マリア
古里たかこ
マナ助産院
小宮尊子
出口??
渡辺??
國米八重子
國米くるみ
國米かえな
藤岡純子
平田ちづる
中本容子
平田さちえ
入江沢香
藤田ひろえ
安田舟太
安田美菜子
小川哲史
小川倫欣
カレーショップ
AYUMUNYA
よじま
アント・ワークヘアコレクション
黒田久夫
森山和泉
吉岡克浩
池田光恵
桑原慎一
後 恵子
認定NPO法人
Present Garden to
小野 勝
竹下英樹
小川真依
井上文子
藤田いくえ
藤田ななえ
西尾育子

特別会員

(株) 日能研 関西

Topics

ナショナル・ミーティング in 和歌山
2017年6月23日(日)



AIC-Japan 和歌山と神戸のメンバー (今福教会)

日本のAICは、神戸と和歌山にあります。それぞれユニット毎に活動していますが、年に一度、顔を合わせて報告会をし、親睦を深めています。このユニットが全国に広がることを期待しながら、今年も心を込めて活動してまいります。

ビンセンシアン・ファミリーデー in 神戸舞子
2017年7月9日(火)



上) トーマス総長を囲んで 下) 講和の時間

ヴィンセンシアン・ファミリーデーは、司祭、シスター、SSVP、AICの4つのグループが顔を合わせます。今年はトーマス総長を迎えての一日となり、改めてファミリーの一員であることを実感する貴重な時間になりました。

支援のお願い

会員の方にはNPO法人AIC-Japanのニュースレター（年1回発行）をお届けいたします。

会員となつてご支援していただくことで、安定した支援活動を計画することができます。活動継続のためには、皆さまのご協力が必要です。ご支援いただける方は、下記の口座いずれかにご入金をお願いいたします。

尚、銀行をご利用された方は事務局まで電話またはメールにてご連絡いただきますよう重ねてお願いいたします。未来のためにあたたかいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

会費の種類

[賛助会員：活動内容に賛同し、支援して下さる会員]

- ・個人会員 1口 6,000円/年 [月 500円]
- ・里親会員 1口 18,000円/年 [月 1,500円]
- ・特別会員 1口 60,000円/年 [月 5,000円]

[正会員：活動に参加することを目的とする会員]

- ・正会員 12,000円/年 [月 1,000円]

- ・三井住友銀行 明石支店 普通 6738439
- ・みなと銀行 舞子支店 普通 4042732
- ・ゆうちょ銀行 四三八支店 普通 0199849
または記号 14360-2-01998491

[郵便振込の場合]

- ・郵便振替口座 00950-4-158176

特定非営利活動法人 AIC-Japan まで

※正会員費は活動費として、賛助会員費の20%は支援準備金と支援に必要な経費（事務費・通信費など）に使わせていただきます。

※手数料はご負担願います。
(ゆうちょ銀行間は月3回まで手数料が無料)

●月毎の引落しをご希望される場合

「自動送金サービス依頼書」に必要情報を記入し、お届け印を押してご提出下さい。ご希望の銀行窓口で簡単に手続きができます。

●会員を希望されない場合

賛助会員をご希望されない場合は、「寄付」をお願いしております。お手数ですが事務局までご連絡ください。AIC-Japanはこれからも心を込めて活動してまいりますので、どうぞ暖かいご支援をよろしくお願いいたします。



©NPO AIC-Japan



©NPO AIC-Japan

特定非営利活動法人 AIC-Japan 事務局

[TEL] 080-6134-7684

[MAIL] aicjapanstvincent@yahoo.co.jp

[URL] <https://www.aic-japan.org/>

※初めてご支援いただく方は、お手数ですが事務局までご連絡ください。



国際愛徳協議会 (International Association of Charities · <http://www.aic-international.org/>) は 400 年の歴史を持ち、世界で最も古い女性ボランティア団体です。本部はベルギーのブリュッセルで世界 52 カ国に支部があり、約 20 万人の会員がいます。

戦争や疫病に苦しんでいた 17 世紀のパリで若き司祭、ムッシュ・ヴァンサンとして親しまれていた聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ (1581-1660) は愛徳姉妹会の創立者、聖ルイズ・ド・マリアク (1591-1660) の助けを受け、行き倒れの病人や孤児たちを救いました。聖ヴィンセンシオ・ア・パウロは政治には一切関与せず、名譽ある役職から遠ざかっていましたが、政財界の信頼と尊敬を一身に受けていました。そこで、裕福な貴婦人たちに食事を作らせ、貧しい病人のもとに持って行って食べさせたのがこの会の始まりです。日本は 聖ヴィンセンシオの愛徳姉妹会のシスターが中心となり、1999 年に神戸、翌年 2000 年に和歌山に誕生しました。

発行： AIC JAPAN 神戸 [特定非営利活動法人 AIC-Japan]

〒655-0046 神戸市垂水区舞子台 8-20-1

聖ヴィンセンシオ・ア・パウロの愛徳姉妹会内

Tel. 080-6134-7684

E-mail aicjapanstvincent@yahoo.co.jp

<http://aic-japan.org>

AIC JAPAN 和歌山へのお問い合わせは下記まで

〒641-0044 和歌山市今福 3-5-21

Tel. 073-451-6460